

TOPICS

1

岡山の豊かなヒノキ資源を次世代へ

山林DXでCommunity Healthの実現を目指す

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業では、研究成果の社会実装を通じて地域課題の解決を図り、安心・安全に暮らせる地域の健康Community Healthの実現を進めています。今回は、岡山の豊かなヒノキ資源を次世代に引き継ぐため、本学が取り組む山林DXについて紹介します。

岡山県はヒノキの国内生産量で全国1位を誇り、豊かな森林資源に恵まれています。森林は、木材供給を通じて地域産業を支えるだけでなく、二酸化炭素の固定化による地球環境への貢献や水源の涵養、土砂災害の防止など、地域の暮らしと安全を支える重要な基盤です。こうした森林資源を持続的に活用するために適切に管理することは、地域の未来を守る重要な役割です。一方で、林業の現場では、林業従事者の高齢化による担い手不足、作業中の安全・健康管理の難しさ、県産材のブランディング向上の必要性、イノシシやシカによる鳥獣被害の拡大、さらには気候変動の影響など、森林資源を次世代へ引き継ぐうえで多くの課題が顕在化しています。特に、電波や電源が届きにくい山林では、従来の通信技術では情報の取得・共有に限界があり、現場の安全確保や資源把握(材積管理)におけるDXの進展が困難でした。



(左：半田山での自律ドローンによる点群取得実験の様子)
(下：取得した点群データ)



点群データとカメラ画像を元にAIで樹木検出



山林内作業風景



真庭市での「森林・木材・木造建築に関するワークショップ」

こうした課題に対して、医療・健康分野の知見や情報通信技術、地域フィールドでの実証力を組み合わせ、岡山大学ならではの学際的な強みを生かした山林DXを推進。山林でも通信が可能となる独自開発の可搬式ノード・ゲートウェイ(LPWA)を活用し、林業従事者が装着するウェアラブル端末情報をリアルタイムで収集・共有することで、安全・健康管理の強化を図ります。

さらに、ドローンによる樹間飛行を活用した森林資源の可視化や材積管理、野生鳥獣と人間活動の「境界線」に着目した鳥獣害対策のDXにも取り組んでいます。

これらの取り組みは、森林保護にとどまらず、地域の人々の命と健康を守り、産業の持続と安心な暮らしの実現に貢献するものです。今後も、研究力とデジタル技術の融合により、持続可能な森林活用とCommunity Healthの実現を目指します。

》 緊急時に外部への連絡手段がない

林業における労働災害

■労働災害の発生率[図1]

業種	2022年
全産業	2.3
林業	23.5
鉱業	9.9
建設業	4.5
製造業	2.7
木材・木製品製造業	12.3

※千人単位は、1世帯の労働者1,000人当たり発生した死者数の割合を示すもの。
出典：厚生労働省「労働安全衛生調査および職業別労働力調査」

■事業体の規模別死傷者数[図2]

事業体の規模	2022年
300人以上	0
100～299人	26
50～99人	61
30～49人	116
10～29人	366
9人以下	607
合計	1176

出典：厚生労働省「労働安全衛生調査」

▲引用：FOREST JOURNAL Vol.19

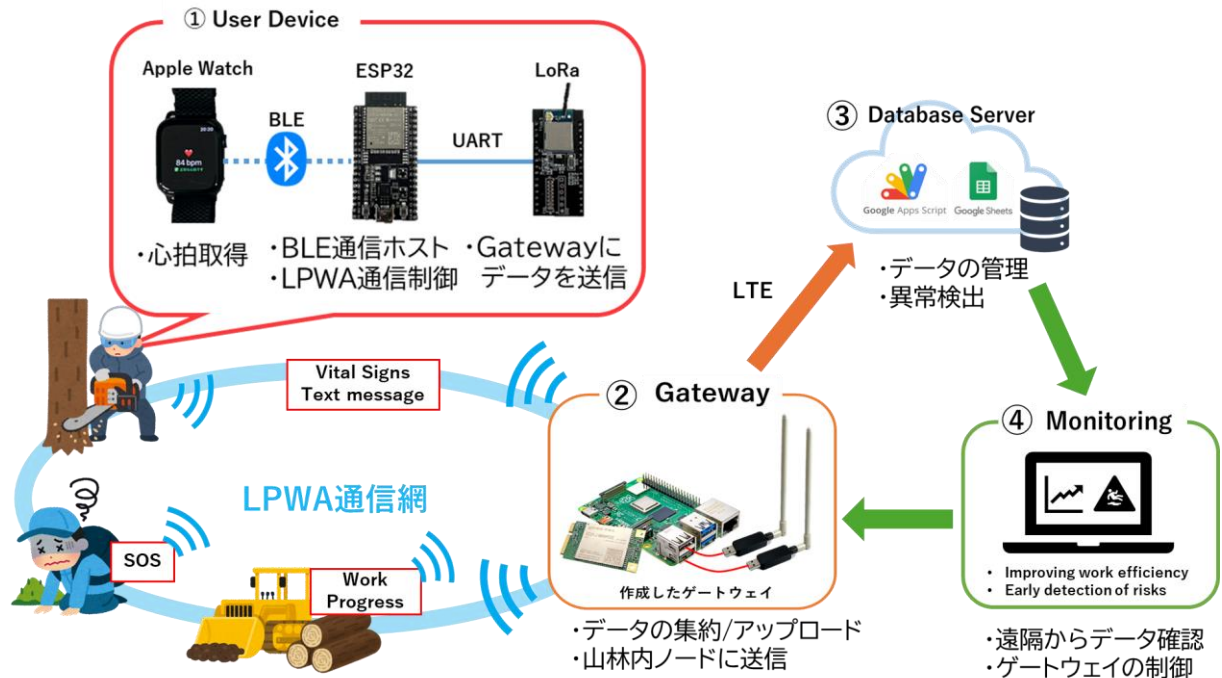


労働災害発生率
一般職業の10倍



事業体規模→小
死傷者→多

■ 林業の労働災害対策 (LPWA網の構築から山林内バイタルデータ取得)



○那須保友学長のコメント

山林の現場では、担い手不足や安全管理の厳しさ、鳥獣被害、気候変動への対応など、従来のアプローチだけでは解決が難しい課題が顕在化しています。これらの地域課題に対して地域中核・特色ある研究大学：岡山大学の知を結集し、研究成果を社会実装へとつなげることで、地域と一体となって解決策を形にしていきたいと考えています。

この取り組みは、山林DXを通じて森林資源の持続的活用を図るとともに、林業に携わる方々の安全と健康を支え、新しい価値を創出するCommunity Healthの実現に資するものです。本学は、J-PEAKS事業のもと、これからも地域とともに歩みを強力に進めます。どうぞご期待ください。



TOPICS

2

アメリカ科学振興協会(AAAS)年次大会において岡山大学のJ-PEAKSの取り組みを紹介

本学は、J-PEAKSに基づき、知識を生かして新しい価値を生み出す力を持ち、柔軟な対応力と広い視野を備えた人材、“ナレッジワーカー”の育成に取り組んでいます。その一環として、海外の大学関係者に対し本学のJ-PEAKSの活動内容や魅力を発信するとともに、海外での発表という貴重な業務経験を通じて職員の高度化を推進することを目的にAAAS年次大会に参加しました。

本学は、今後もナレッジワーカーの育成とともに、J-PEAKSの取り組みを積極的に国内外に発信していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15116.html



TOPICS

3

技術統括監理本部・医療技術部と総合技術部の合同研修会開催～総合技術部第88回医学系技術課 鹿田研修会を開催～

本学技術職員の一元組織である「岡山大学技術統括監理本部」のもと、岡山大学病院医療技術部検査部門と総合技術部医学系技術課とのコラボレーションとして「総合技術部第88回医学系技術課鹿田研修会」を開催しました。

従来の教育研究系技術職員と医療技術職員の枠を超えた交流や情報交換等を行うことで、技術職員が新たな知識・技術等を修得し、能力や資質を向上させるとともに、組織の活性化を促進することを目的としました。

今後も、全学の技術職員の連携を深め、多様な研修プログラムを通してスキルアップを図ることにより、取り組みの強化を推進していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15109.html



TOPICS

4

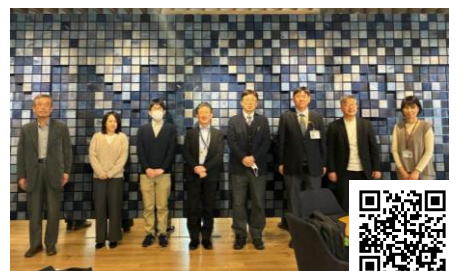
津山工業高等専門学校と連携に向けた意見交換を実施

津山工業高等専門学校(津山高専)の寺元貴幸副校長、藪木登副校長らが本学を訪問し、本学津島キャンパスにある共創イノベーションラボ(KIBINOVE)の視察及び意見交換を行いました。

KIBINOVEをサテライト拠点として活用する取り組み、本学が実施するスタートアップ等イベントへの高専生の参画、高専生と大学生の協働プロジェクトの創出や学生交流の活性化など、将来の産学連携人材を育成するための取り組みについて意見が交わされ、継続的な協力関係を強化していく方針を共有しました。

本学は、今後も津山高専をはじめとする教育機関との連携を拡大し、地域社会に貢献する研究・教育基盤の強化を進めていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15135.html



TOPICS
5

岡山大学発ベンチャーと久米南町が連携 世代を超えた交流を通じて「暮らし」と「幸福」を考える体験型イベントを開催

本学と岡山県久米南町は、学生と地域住民が世代を超えて交流しながら、先端技術や地域の自然を体験する参加型イベントを開催しました。

学生と地域住民が同じ目線で学び合うことで、地域における新たな交流の形の創出を目指して企画したものです。

学生の柔軟な発想と先端技術、地域の伝統や自然を融合させながら、持続可能な地域社会の実現に向けた具体的な取り組みを一層進めていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15131.html

TOPICS
6

「先端医学研究トレンド～岡山大学クライオFIB-SEM・トモグラフィー特別講演会 in 鹿田～」を開催

本学医療系等研究開発戦略委員会は、最先端の医学研究領域において、世界をリードする研究者の講演や意見交流の場である「先端医学研究トレンド」の特別講演会を本学鹿田キャンパス鹿田会館講堂において開催しました。

講演後には、異分野基礎科学研究所の沈建仁所長を座長として、参加者との間で活発な質疑応答や議論が交わされ、ゲノム科学研究の最前線に触れる貴重な機会となりました。

本学ではJ-PEAKSの取り組みの一環として、先端分析計測設備・基盤設備の充実および共用化を推進しています。中四国地域に初導入したクライオ電子顕微鏡や、西日本初導入のクライオFIB-SEM 装置についても共用化しており、他機関との連携・ネットワークの強化を図っています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15108.html

TOPICS
7

きびだんごの伝統を次世代へつなぐ「共創」の深化～原材料もち米の生産者と岡山大学が廣榮堂の製造現場で懇談会を開催～

本学は株式会社廣榮堂との共同研究を一層深化させるため、同社本社工場で開催された「工場見学・生産者懇談会」に参加しました。この取り組みは、「株式会社廣榮堂と岡山大学の総合的取組み」の実装フェーズとして、生産現場の声を直接聴取し、関係者全体の信頼関係を深めることを目的に行われました。

懇談会では、生産現場と大学の知見が交差する中で、栽培技術の向上に向けた具体的な議論が展開されました。

本学は今後も、伝統の継承と地域課題の解決に向けたイノベーションをけん引していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15145.html



TOPICS
8岡山テックガレージが拓くアントレプレナーシップの未来
～本学事務職員が高専機構主催イベントで登壇～

令和7年度「イノベーションを創出するアントレプレナーシップ教育強化」事業の年度末報告会に、本学研究・イノベーション共創機構産学官連携本部の船倉隆央副本部長が登壇し、学生の自由な創造と挑戦を支える拠点「おかやまテックガレージ」の取り組みを紹介しました。

大学発ベンチャーの創出や地域社会への実装を加速させるための知見を、全国の教育関係者、自治体、企業担当者と共有する貴重な場となりました。

今後も、産学官民の連携を一層推進し、次世代のイノベーターが育つ持続可能なエコシステムの構築に取り組みます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15142.html

TOPICS
9紙よりはるかに薄い結晶で、光のふるまいをデザイン
ナノメートル厚の結晶の「向き」と「ねじれ」による新しい光制御

本学高等先鋭研究院を構成する異分野基礎科学研究所の三澤弘明教授らの国際共同研究グループは、紙よりはるかに薄いナノメートル厚の2次元結晶 MoOCl_2 (ジクロロオキソモリブデン(IV)) を用い、結晶の「向き」と「ねじれ」を設計要素として光のふるまいを制御できることを示しました。

これらの成果は、鏡に映すと重ならない形の分子を見分ける高感度センサーなど、新しい光技術の進展につながると期待されます。

J-PEAKS事業では、社会変革を成す研究・イノベーションの強化促進を行っています。三澤教授はJ-PEAKSの取り組みを担うトップ研究者のひとりであり、今後もその活躍にご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1506.html

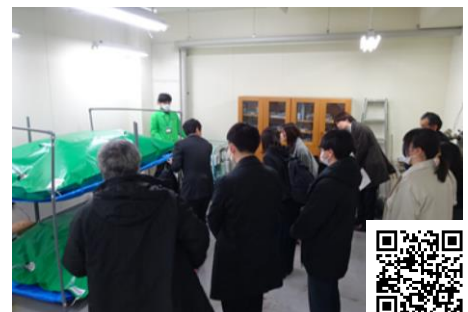
TOPICS
10

文部科学省職員が地域中核・特色ある研究大学の取り組み「中四国・播磨HeReNet」の施設整備を見学

文部科学省職員が本学研究機器共用体制・整備等強化促進に関するタスクフォース(チーム共用)が取り組む、「中四国・播磨ヘリウムリサイクル事業ネットワーク(通称:中四国・播磨HeReNet)」の施設設備等の見学に訪れました。

本学は、「中四国・播磨HeReNet」および「HeliGet」(使用済設備などから液体ヘリウムを回収)を通じて、学内のみならず近隣の大学や研究機関、高等専門学校、企業等に液体ヘリウムを供給することで、液体ヘリウムを使った研究・開発の裾野を大いに拡げることを目指しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15150.html



TOPICS
11

岡山大学高等先鋭研究院 令和7年度「植物・光エネルギー開発拠点」研究報告会を開催

本学の高等先鋭研究院の先鋭研究群「植物・光エネルギー開発拠点」は、「令和7年度植物・光エネルギー開発拠点研究報告会」を本学共創イノベーションラボ(KIBINOVE)開催しました。

報告会には特区先鋭研究者および特区主任研究者全員が参加し、各自および各グループの令和7年度の研究の進捗や今後の連携の可能性などを報告しました。また那須保友学長も参加し、活発な議論が交わされました。

今後も本拠点は、世界と伍す強みある研究拠点の形成とともに、地球と生態系の健康(Planetary Health)の実現に向け、新たな知見と新技術開発を推進していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15169.html

TOPICS
12

自由民主党本部で那須学長が「研究大学に向けた大学法人経営改革」について講演

本学の那須保友学長が、自由民主党本部で開催された所属国会議員ら約20名が出席する自民党政務調査会の文部科学部会および科学技術・イノベーション戦略調査会による合同会議に登壇し、「研究大学に向けた大学法人経営改革」について講演しました。

那須学長は、「運営から経営へ」を掲げ、自ら、国立大学法人の既成概念を打破する改革を断行していることに触れ、議員からも本学の取り組みについて高い関心が寄せられ、組織・制度の改革と大学の持続的な経営基盤の確立が重要である点が関係者で共有されました。

本学は、わが国全体の科学技術・イノベーションの振興につながる取組を積極的に強化・推進していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15132.html

TOPICS
13

岡山大学病院消化器内科の衣笠秀明助教がAMED「革新的がん医療実用化研究事業」に採択



岡山大学病院消化器内科の衣笠秀明助教が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の「令和8年度革新的がん医療実用化研究事業」に採択されました。

同事業は、研究成果を確実に医療現場に届けるために、主に応用領域の後半から臨床研究領域において、革新的な診断や治療などのがん医療の実用化を目指した研究を強力に推進するものです。

J-PEAKS事業でも、全学を挙げて戦略的かつ重点的に研究・イノベーション強化を図る本学の「岡山大学最重点研究分野」のひとつであるヘルスケアにより、Well-beingの向上を戦略的に推進しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15137.html

TOPICS
14

高橋和教授らのグループが第8回岡山テックプランングランプリで最優秀賞を受賞

岡山発ベンチャーの発掘と育成を目的としたビジネスプランコンテスト「第8回岡山テックプランングランプリ」で、本学学術研究院環境生命自然科学学域の高橋和教授らのグループ「SPACE SAFE」が最優秀賞を含む複数の賞を受賞しました。

「SPACE SAFE」が提案した技術は、宇宙機器故障の主因の一つである静電気放電を、シリコンフォトニクスを用いた光計測技術によって可視化しようとするものです。

本学は、スタートアップ・ベンチャー創出本部が窓口となり、スタートアップ支援を通じて地域や国際社会におけるイノベーション創出に尽力しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15138.html

TOPICS
15

「岡山大学ナレッジシェアリングイベント」を開催

本学は知識を生かして新しい価値を生み出す力を持ち、柔軟な対応力と広い視野を備えた人材、“ナレッジワーカー”の育成に向け、「岡山大学ナレッジシェアリングイベント」を開催しました。

今回のイベントでは、同様のイベントを積極的に開催している新潟大学学務部学生支援課の寒川美樹さんと新潟大学総務部企画課の西山純一さんをスペシャルゲストとして迎えました。



本学の事務職員や技術職員が主体となって取り組んだ7つテーマの発表が行われ、幅広いナレッジが共有されました。各ナレッジの発表後には感想や質疑応答を通じてフィードバックを得ました。

本学は今後もナレッジワーカーの育成を推進するとともに、好事例については積極的に横展開します。

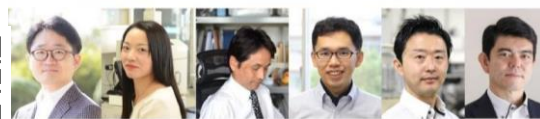
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15161.html

TOPICS
16

本学教員9人がPSI GAPファンドに採択～研究成果の社会実装とスタートアップ創出を加速～

本学の教員9人が、PSI GAPファンドに採択され、農業、医療、AI、材料など幅広い分野において、本学の研究シーズが高く評価され、社会実装や事業化に向けた取り組みが進められます。

本学は今後も、優れた研究成果を着実に育成し、社会課題の解決や新産業の創出、スタートアップの創出へとつなげることで、地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学としての役割を果たしていきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15152.html

TOPICS
17

岡山大学とUNCTADによる「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」第5期生の研究成果発表会を開催

岡山大学と国連貿易開発会議(UNCTAD)による「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース: Young Female Scientist Programme in Japan」の第5期生による研究成果発表会を開催しました。

本学は、STI for SDGsを実施運営する国連の中枢機関のUNCTADとの連携をさらに強化し、STI for SDGsの人材育成の取り組みを岡山から世界へ推進し、国内外に発信していきます。J-PEAKSにおいても世界課題解決に資する人材育成を進めています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15115.html

TOPICS
18

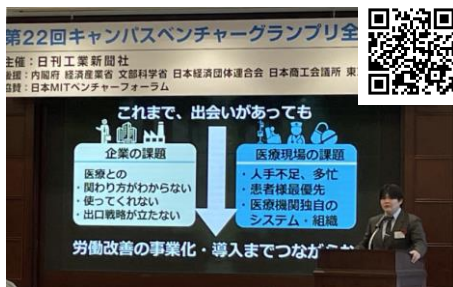
キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に岡山大学生が出演、全国の舞台上で健闘

東京都で開催された「第22回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)全国大会」において、本学学生が中国大会代表として出場し、全国の舞台上で健闘しました。

本学から出場した、工学部3年の伏谷健太郎さん、医学部保健学科4年の森本翔大さんは、それぞれ、「地方共創型RaaSでロボット導入をラクに」、「医療・介護福祉業界への新規参入サポート」をテーマに、地域や社会の課題解決につながるビジネスプランを提案しました。

受賞には至りませんでした。全国大会出場を通じて大きな経験を積み、今後につながる成果を得る機会となりました。

今後も、学生の挑戦を後押しし、地域や社会に新たな価値を生み出す取り組みを推進していきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15123.html

TOPICS
19

こうべユニバーサルツーリズムシンポジウムを開催「誰もが参加できる持続可能で責任ある観光」を促進する産官学連携モデルを発信

岡山大学ユネスコチェアは、神戸市および一般財団法人神戸観光局との共催による「こうべユニバーサルツーリズムシンポジウム」を神戸市立中央区文化センターで開催しました。

本学ユネスコチェアホルダー横井篤文副学長(グローバル・エンゲージメント担当)による開会あいさつが行われ、後半のパネルディスカッションでは、ユニバーサルツーリズムの推進に関する今後の展望等について議論を深めました。

SDGs達成のための基盤となる持続可能な開発のための教育(ESD)を本学の特色として、地域および国際社会とのより一体的なパートナーシップ構築の取り組みを推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15129.html



TOPICS
20東京農工大学と地域中核・特色ある研究大学における
研究開発マネジメント人材の育成と運用についての意見交換を実施

本学津島キャンパスの共創イノベーションラボ(KIBINOVE:きびのべ)において、同じJ-PEAKS採択大学である東京農工大学の中村暢文特命理事らと研究開発マネジメント人材に関する意見交換を実施しました。

本学は今後もさまざまなステークホルダーとの連携強化を進め、研究開発マネジメント人材のより良い育成と運用を進めていきます。そしてそれを生かすため大学の組織・制度改革を従来の概念にとらわれず、スピード感を持って決断・実行します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15170.html

TOPICS
21

「研究大学コンソーシアムシンポジウム(第9回)」に松本匡史主任URAと小林健輔URAが登壇

「研究大学コンソーシアムシンポジウム(第9回) 実践生成AIー研究大学が向き合うべき課題と活用術ー」が都内で開催され、本学研究・イノベーション共創機構の松本匡史主任URAと小林健輔URAが登壇しました。

小林健輔URAは、「Researcher2VecとLLMによる検索システム」と題した事例紹介を講演。「研究大学におけるAIの可能性を考える」と題したパネルディスカッションでは、松本匡史主任URAが登壇し、生成AIにおけるハルシネーションをおさえる工夫等について活発な議論を交わしました。

J-PEAKSにおいても生成AI等を活用し、取り組みを加速させていきます。

参考 https://www.ruconsortium.jp/symposium/list/20260213_movie.html

TOPICS
22

中四国9大学が集結する「第2回 PSI学生アイデアピッチ in 徳島」で本学大学院生が受賞

中四国地域の大学生・大学院生が自らのビジネスアイデアを発表する「第2回 PSI学生アイデアピッチ in 徳島」が徳島大学で開催され、本学大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程2年の鎌田郁矢さんが登壇し、株式会社産学連携キャピタル(AIAC)による「AIAC賞」を受賞しました。

本学は、技術シーズやビジネスプランの事業化に向けた助言、支援機関・専門家との接続など、学生・教職員の挑戦を幅広く支援しています。ぜひ今後も取り組みにもご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15122.html



TOPICS
23

設置費・保守費・修理費・撤去費が不要でお得な研究機器レンタル・リース「SXプラットフォーム」2025年度第2回全体会議を開催～大阪公立大学が新加盟～

本学が事務局を務める設置費・保守費・修理費・撤去費が不要なお得な研究機器レンタル・リース「SXプラットフォーム」の第2回全体会合をハイブリッド形式で開催。課題点の洗い出しとともに、より良いサービス提供のための取り組み案や「先端研究基盤刷新事業(EPOCH)」への産学連携の対応等について活発な議論が行われました。また、J-PEAKS採択大学の大阪公立大学の加盟が報告されました。

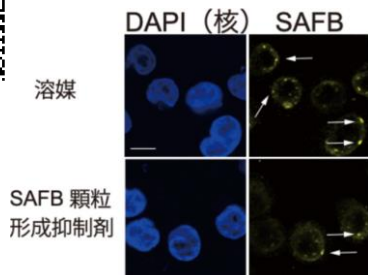
本取組は、わが国の研究基盤を刷新するものです。どうぞ加盟する産学連携機関の取り組みにご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15181.html

TOPICS
24

ハイパーサーミアの抗腫瘍効果を大幅に向上～新規ハイパーサーミア増感剤の開発に成功～

本学大学院ヘルスシステム統合科学研究科の古谷優治大学院生と嶋崎菜月大学院生、山田莉瑚大学院生、学術研究院ヘルスシステム統合科学学域の大槻高史教授、渡邊和則准教授の研究グループは、熱ストレスによって細胞の核内で形成されるSAFB顆粒の形成を抑制する化合物を開発しました。また、動物実験において、本化合物とがん治療法の1つであるハイパーサーミアを併用することで、抗腫瘍効果が有意に増強されることを明らかにしました。本研究で開発したSAFB顆粒形成抑制剤は、抗がん剤とは異なる作用機構によりハイパーサーミアの効果を高める可能性があり、治療効果の向上と副作用軽減が期待されます。今後の研究開発により、新たなハイパーサーミア増感剤としての応用、発展が期待されます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1508.html

TOPICS
25

第2回山本進一記念賞表彰式を挙行了しました

本学の佐藤法仁副理事・副学長・上級URAが表彰審査委員長を務める「山本進一記念賞」の第2回表彰式を、研究大学コンソーシアムシンポジウム(第9回)の開催に合わせて挙行了しました。

本賞は、本学元理事・副学長でもある山本進一先生の長年にわたるご功績を称えとともに、研究大学コンソーシアム・シンポジウム等において共有されてきた研究開発マネジメントの実例等を中心に、他大学・研究機関等にも参考となる好事例やそのチーム活動等を表彰するものです。

J-PEAKSにおける研究大学群の形成にも寄与する取り組みであり、今後も本学は運営をしっかりと担います。

参考 <https://www.ruconsortium.jp/efforts/yamamoto/hyoushou.html>



TOPICS
26

大学職員の高度化ワークショップ「政策を味方に！若手・中堅のための国の動向を読み解く実践型ワークショップ」開催

本学は、国公私立大学の若手・中堅職員およびURAを対象とした「政策を味方に！若手・中堅のための国の動向を読み解く実践型ワークショップ」を開催しました。

全国32大学・1高専から80名以上が参加し、概算要求の仕組みや政策資料の読み解き方、事業組成などについて、少人数でのグループワークや講演を通じて学習しました。本ワークショップは、事務・技術職員が教員中心の運営を打破し、マネジメント人材として参画するための人材育成を目的としたもので、2日間にわたり開催されました。

2日間のプログラムには、文部科学省大学研究基盤整備課大学研究力強化室の大久保雅史専門官による講演や講評も盛り込まれ、参加者からは「初心者でも大変わかりやすい説明だった」、「学びが多かった」といった感想が寄せられました。

事務職員や技術職員が大学法人経営に参画していくためには国の政策に強くなり、企画立案も含めた事業組成ができる人材、そして情報（知識）を知恵に変えて新しい価値を生み出すことができるナレッジワーカーの増加が重要です。本学と連携機関のさらなる取り組みにご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15196.html

イチオシの研究設備

オミックス解析ソフトウェア

本研究設備は、ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクス・リポミクスといったマルチオミクス解析ができるソフトウェア群です。専門的なコマンド入力を必要とせず、質量分析装置や次世代シーケンサーの測定データを、簡単な操作でデータベース検索し、様々な階層で同定・定量、図示化、統計処理などができます。また、様々なソフトウェアがあるため、異なるアルゴリズムによる解析結果を比較することや、多変量解析などもできます。本システムはゲノム・プロテオーム解析部門1階共同機器室に設置されており、自己解析での利用に加

えて、技術職員による質量分析の測定からデータ解析までの一貫した依頼分析も受け付けています。

詳細は、研究設備機器共用システム「コアファシリティポータル(CFPOU)」の以下のURLをご参照ください。

J-PEAKSの取り組みとして、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化などを通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。



【管理者】

自然生命科学研究支援センター
宮地 孝明
総合技術部 森下 達矢



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1215>